

国民健康保険被保険者証(保険証)

有効期限は3月31日までです!!

— 国民健康保険に加入しているみなさんへ —

保険証が一斉に更新されます。

現在、国民健康保険に加入されている皆さんに、4月1日から使用する新しい保険証(世帯ごとの加入者全員分)をまとめて**世帯主様宛**に3月下旬までに郵送します。保険証は、皆さんが医療機関等で受診するときに国民健康保険の加入者であることを確認できる唯一の証明書です。4月1日からは、必ず新しい保険証をご使用ください。

手続きは住民課で

●古い保険証はどうするの?

有効期限が切れた後、返却してください。

●社会保険に加入(会社に就職した、家族の扶養に入ったなど)したときは?

必ず、社会保険に加入された世帯全員分の国民健康保険被保険者証と社会保険被保険者証の**両方を持参のうえ、すみやかに**(14日以内)手続きが必要です。

●社会保険を抜けた(会社を退職など)ときは?

必ず、社会保険を抜けた日が明記された**証明書**(資格喪失連絡票、退職証明書、離職票等)を**持参のうえ、すみやかに**(14日以内)手続きが必要です。

★手続きの際は、窓口に来る方のご本人確認をさせていただきますので、顔写真付の公的機関が発行した身分証明書(運転免許証、住基カード等)を必ずご持参ください。

【注意】医療機関にかかる前に、ココを確認してね!
有効期限が切れていると、窓口で全額(10割)負担となる場合があります。

国民健康保険被保険者証	有効期限 平成26年3月31日
	記号 多 番号 12345
氏名	多古 太郎
生年月日	昭和〇〇年〇〇月〇〇日 性別 男
資格取得年月日	昭和△△年△△月△△日
交付年月日	平成△△年△△月△△日
住所	香取郡多古町多古 584 番地
世帯主氏名	多古 一郎
保険者番号	1200691 保険者名 多古町 <small>(多古町長之印)</small>

お問合せ●住民課国保年金係 ☎ 76-5405

のシステムや介護保険の制度など患者さんにとっては難しいことが多いので、私たちの役割が重要になってきています。病气や問題を抱えていて、悩みがある方にはなるべく早めに相談していただきたいと思っています。滞っていたがために、手遅れになってしまったこともありますし、火種が小さいうちに相談していただければ解決につながるということもあります。

また、医師や看護師に聞いてみたいけどなかなか聞けないという場合など、ちょっとした疑問でも構わないので利用してもらえればいいと思います。「何でも聞きます、何でも相談に乗ります、先生との橋渡しもしますよ」という感じで利用できますので、入院の患者さんだけでなく、これから病院を利用しようと考えている方でも気軽にご利用ください。



地域医療を確保・充実させていくためには、医療機関や行政だけではなく地域の皆さんの理解と協力が不可欠です。健康診査や介護予防教室など日頃から自己の健康管理に努めていただくことや「かかりつけ医」を持つことで医師の負担を軽減し、適切な医療を患者さんに提供することができます。また、夜間や休日の受診について見直していただくことも大切です。これらは、医療費の削減や国保会計の維持にもつながります。医療について学び、理解し、適切に医療機関を利用することが私たちにもできることのひとつと言えるのではないのでしょうか。



看護師 平山さん



社会福祉士 菅井さん

前月号では地域医療の沿革や概要などについて国保多古中央病院の取り組みとあわせて紹介しました。今月号では、病气中心から「人中心」へとシフトする地域医療のなかでも重要な役割を担う**医療連携室・患者相談室**のお二人に話を伺いました。

「患者さんの立場に立って」

— 医療連携室・患者相談室 —

昨年の4月から医師2名、看護師と社会福祉士の4人体制になってスタートしました。名前は二つありますが、どちらも密接に関係していますので特に担当が分かれているわけではありませぬし、1つのケースで看護師と社会福祉士という、違う職種での見方もできますので、患者さんにとってもよりよい体制だと思っています。

医療連携の業務として主なものには転院があります。町外の病院から相談を受けて、患者さんの症状や病床の空き状況などを医師と相談して受け入れることになりませんが、これらにかかる一連の手続きや日程調整などを行います。逆に町外の病院や施設に転院・入所を依頼することもありますし、専門的な大きな病院で診てもらうための予約を取ったりすることもあります。

相談業務としては、患者さんやご家族から「今後どうしたらいいか?」などのどちらかと言えば福祉的な内容が主です。要するに、私たちの仕事は一口で言えば「何でもやる橋渡し役」というところでしょうか。医師や看護師も相談を受けますが、

自分たちが間に入ることで、医師や病棟のスタッフの仕事がより円滑に進むだけでなく、患者さんにとってもきめ細やかな対応ができます。

このような橋渡し役が重要になってきた背景には、社会が高齢化してきて、老々介護や生活保護・独居世帯が増えているという現状が考えられるのではないのでしょうか。地域包括支援センターやケアマネージャーだけでは対応しきれない部分、病院としての役割も必要になってきたということです。

また、医療は多様化しています。在宅支援や施設入所、病院

